

# 福島イノベーション・コースト構想 の進捗について

平成 2 9 年 1 1 月 2 7 日

福島イノベーション・コースト構想  
推進分科会事務局

# 福島イノベーション・コースト構想 主な拠点、プロジェクト、関連（研究）機関等

2017年11月現在

## 天然ガス（LNG）火力発電プロジェクト（新地町）



LNG火力発電所

59万kWのコンバインドサイクル方式発電設備2基で構成される天然ガス(LNG)火力発電所整備プロジェクト。

## 藻類バイオマス・エネルギー実証施設（南相馬市原町区）



藻類バイオマス・エネルギー実証施設

福島県土着の微細藻類を活用し、国産バイオ燃料の生産技術を確立。

## スマートコミュニティ構築（新地町、相馬市、浪江町、楡葉町、葛尾村）



スマートコミュニティ

新地町、相馬市、浪江町、楡葉町、**葛尾村**の5市町村において、スマートコミュニティの構築に向けた実証事業等を推進。

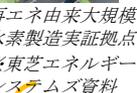
## フラワー・コースト創造プロジェクト（飯館村、葛尾村、川俣町等）

「花き」等食用以外の品目への転換や、見せる農業としての花きの振興を推進。カスミソウやトルコギキョウ、胡蝶蘭、アンズリウム等の栽培を実施。



川俣町のアンズリウム栽培

## 再エネ由来大規模水素製造実証拠点（浪江町）



再エネ由来大規模水素製造実証拠点 ※東芝エネルギーシステムズ資料

再生可能エネルギーを利用した大規模水素エネルギーシステムの開発を実施。**平成29年8月にNEDOプロジェクトの実施が決定。**

## 避難地域等の再生可能エネルギー導入促進



避難地域等における再生可能エネルギー導入促進のため、阿武隈山地・沿岸部における風力発電や太陽光発電の大量導入を可能とする共用送電線を整備。

## 水産研究拠点（いわき市）水産種苗研究・生産施設（相馬市）



水産種苗研究施設

大熊町で被災した水産種苗研究・生産施設の復旧整備や魚介類の安全性確保のための技術開発を行う水産研究拠点を整備中。

## 石炭ガス化複合発電（IGCC）プロジェクト（広野町、いわき市勿来）



東京電力/福島IGCCプロジェクト (勿来サイト、広野サイト)

広野・いわき市勿来の両地点に約54万kWの世界最新鋭の石炭ガス化複合発電（IGCC）プラントを1基ずつ建設・運用。

## 福島ロボットテストフィールド（南相馬市原町区、浪江町）

ロボットの開発・実証のためのロボットテストフィールド、国際産学官共同利用施設を整備中。**平成30年度以降順次開所予定。**



福島ロボットテストフィールド

## 農業総合センター（郡山市） 浜地域農業再生研究センター（南相馬市原町区） 浜地域研究所（相馬市）

浜地域の営農再開・農業再生を図るための調査研究を現地環境下において実施。



浜地域農業再生研究センター

## 環境制御型施設園芸構築プロジェクト（大熊町、南相馬市、川内村、いわき市等）

ICTを活用した温度、湿度等の生育条件の管理や省力化技術等、先端技術を活用した施設園芸の導入を推進。低コスト耐候性ハウス（トマト栽培）や、太陽光利用型植物工場（イチゴ栽培）等を整備。



いわき市のトマト栽培

## 環境創造センター（三春町） 環境放射線センター（南相馬市原町区）

復興の前提となる環境回復・創造に向け、モニタリング、調査研究、情報収集・発信、教育・研修・交流を総合的に実施。

## 情報発信拠点（アーカイブ拠点）施設（双葉町）

原子力災害の教訓等を継承等するための情報発信拠点。**平成29年3月に基本構想を策定。平成32年度に開所予定。**



アーカイブ拠点

## 浮体式洋上ウインドファーム実証研究（双葉郡沖）

平成29年度からは全ての浮体式洋上風力発電設備が稼働し、世界初となる複数基による本格的な実証事業を実施。



浮体式洋上風力発電設備

## JAEA 関連施設

- ① 大熊分析・研究センター（大熊町）
- ② 廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟（富岡町）
- ③ 楡葉遠隔技術開発センター（楡葉町）

- ① 燃料デブリや放射性廃棄物などに含まれる難測定核種分析手法等の開発や、燃料デブリや汚染水処理後の二次廃棄物等の性状把握、処理・処分技術の開発等を実施予定。
- ② 国内外の大学、研究機関、産業界等の英知を結集し、廃炉に係る研究開発・人材育成等を実施。**平成29年4月に開所。**
- ③ 原子炉格納容器下部の漏えい箇所を調査・補修するロボット等の機器・装置の開発・実証試験や、燃料デブリ取り出しに係る機器・装置開発、実証試験等の実施。



廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟



楡葉遠隔技術開発センター

# 福島イノベーション・コースト構想 各プロジェクトの進捗状況等

※赤字は第8回イノベ推進会議  
(2/11)時点からの進捗箇所。

分野	地域	プロジェクト名	事業概要	進捗状況	イベント等特記事項
廃炉	楡葉町	JAEA 楡葉遠隔技術開発センター	○原子炉格納容器下部の漏えい箇所を調査・補修するロボット等の機器・装置の開発・実証試験や、燃料デブリ取り出しに係る機器・装置開発、実証試験等の実施。	○平成24年度の補正予算において、施設整備費として、大熊分析・研究センターと合わせて850億円を計上。 ○平成27年10月に開所式を開催。平成28年4月から、試験棟を含めた本格運用を開始。 ○平成28年度二次補正予算において、施設の整備・運営費として、大熊分析・研究センターと合わせて11億円を計上。	○(平成28年11月6日)マジカル福島(ロボット運動会)を開催。 ○(平成28年12月3日)「第1回廃炉創造ロボコン」開催。 ○(平成29年11月26日)マジカル福島と連携し施設見学を開催。 ○(平成29年12月15日-16日)「第2回廃炉創造ロボコン」開催予定。
	大熊町	JAEA 大熊分析・研究センター	○燃料デブリや放射性廃棄物などに含まれる難測定核種分析手法等の開発や、燃料デブリや汚染水処理後の二次廃棄物等の性状把握、処理・処分技術の開発等を行う。	○平成24年度の補正予算において、施設整備費として、楡葉遠隔技術開発センターと合わせて850億円を計上。 ○平成28年9月着工。平成29年度の運用開始を目指す。 ○平成28年度二次補正予算において、施設の整備・運営費として、楡葉遠隔技術開発センターと合わせて11億円を計上。	○平成30年3月に施設管理棟の開所を予定。
	富岡町	JAEA 廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟	○国内外の大学、研究機関、企業等多様な分野の研究者が集結し、廃炉に向けた基礎的・基盤的研究を実施	○施設整備費として、平成27年度、28年度に計13億円を計上。 ○平成29年4月に開所式を開催。本格運用を開始。 ○平成29年度予算において、運営費を含む設備整備費として6.8億円の予算を計上。	○隣接する「学びの森」等において、廃炉研究関連の国際会議『福島リサーチカンファレンス(FRC)』を実施。平成29年度は6回開催予定。
	未定	技術者研修(廃炉人材育成)拠点	○廃炉人材育成について民間主体で検討し、具体化。	○新々・総合特別事業計画に基づき、東京電力が中心となって検討中。	
	浜通り等(15市町村)全域	浜通りのポテンシャルを活かした産業の集積	○廃炉・放射線分野の実用化開発や企業立地等を推進。	○イノベ実用化開発補助金、自立・帰還支援企業立地補助金等により、浜通り地域への企業立地や先端的研究開発活動を支援(詳細後掲)。	○(平成28年12月7日)「福島県内企業廃炉・除染ロボット関連技術展示会」をJAEA 楡葉遠隔技術開発センターにて開催。 ○(平成29年12月20日)「福島県内企業廃炉・除染ロボット関連技術展示会」をJAEA 楡葉遠隔技術開発センターにて開催予定。

# 福島イノベーション・コースト構想 各プロジェクトの進捗状況等

※赤字は第8回イノベ推進会議(2/11)時点からの進捗箇所。

分野	地域	プロジェクト名	事業概要	進捗状況	イベント等特記事項
ロボット	南相馬市、浪江町	ロボットテストフィールド国際産学官共同利用施設(ロボット)	○無人航空機や災害対応ロボット等の実証実験が行えるテストフィールドや、ロボット技術の共同研究施設を整備。	○平成28年1月21日、経済産業省と福島県において整備・運営に関する協定を締結。 ○平成28年度より基本設計に着手。 ○平成29年度予算において、ロボットテストフィールドの整備のために13.1億円、ロボット技術等の共同利用施設の整備等のため、12.8億円を計上。 ○平成29年7月25日に福島県が開催した第2回福島イノベーション・コースト構想推進本部会議において、福島ロボットテストフィールドの完成予想図を公表。 ○平成29年11月20日に開催した第4回福島イノベーション・コースト構想推進本部会議において、福島ロボットテストフィールドの各施設の開所見込時期を公表。 ○平成29年11月22日に、福島ロボットテストフィールドを活用したロボット・ドローンの実証等に関する協力協定を、経済産業省の立会の下、NEDOと福島県が締結。	○(平成28年6月12日)ロボットテストフィールドシンポジウムを開催 ○(平成28年11月6日)マジカル福島(ドローンレース、ロボット運動会等)を開催。 ○(平成29年1月18日~20日)第1回ロボテックス(東京ビッグサイト)へ出席。 ○(平成29年3月23~25日)ジャパン・ドローン2017に出席。 ○(平成29年10月21~22日)ドローンフェスタ2017in南相馬を小高区文化祭・おだか秋まつりと連携して開催。 ○(平成29年11月25~26日)ドローンフェスタ2017in浪江町を復興浪江町十日市まつり・ふるさと祭りと連携して開催。 ○(平成29年11月29日~12月2日)国際ロボット展に県内ロボット関連企業と共同出席。 ○(平成32年8月)World Robot Summit2020のうち、インフラ・災害対応分野の一部の競技を福島ロボットテストフィールドで開催予定。
	未定	技術者研修(防災)拠点	○防災研修について民間主体で検討し、具体化。	○平成28年度に、官民におけるニーズ等を調査。 ○今後、福島ロボットテストフィールドの活用も含め、検討。	
	南相馬市	ハitekプラザ浜通り分所	○県がハitekプラザ浜通り分所を設置。	○国際産学官共同利用施設(ロボット)に入居予定。	
	浜通り等(15市町村)全域	福島浜通りロボット実証区域	○橋梁、トンネル及びダム・河川その他山野等オープンスペースを実証試験の場として提供。	○平成29年10月末時点で9カ所を指定エリアとしている。 66の開発事業者から123の実証試験希望が出され、このうち93の実証実験を実施。これにより、市町村から提案のあった指定エリアの他、事業者の要望に添って指定エリア以外の区域においても複数実施。	○(平成29年1月12日)世界初・完全自律制御飛行のドローンによる長距離荷物配送の実証試験に成功。 ○(平成29年3月16日)日本初・複数事業者によるドローン運行管理デモンストレーションを南相馬市で実施。 ○(平成29年10月24日~26日)世界初・36の企業・団体による、空域管理や電波管理などを行う実証実験が南相馬市、浪江町で実施。 ○(平成29年10月31日~)国内初・ドローン配送とコンビニエンスストアの移動販売を連携させたサービスを開始。
	浜通り等(15市町村)全域	浜通りのポテンシャルを活かした産業の集積	○ロボット分野の実用化開発や企業立地等を推進。	○イノベ実用化開発補助金、自立・帰還支援企業立地補助金等により、浜通り地域への企業立地や先端的研究開発活動を支援(詳細後掲)。	○(平成29年2月27日)南相馬市において、ロボット分野を対象としたマッチングイベント(ふくしま未来ビジネス交流会)を開催。 ○平成29年5月、産学官連携による「ふくしまロボット産業推進協議会」を設立(平成29年5月22日に設立総会を開催)。

# 福島イノベーション・コースト構想 各プロジェクトの進捗状況等

※赤字は第8回イノベ推進会議  
(2/11)時点からの進捗箇所。

分野	地域	プロジェクト名	事業概要	進捗状況	イベント等特記事項
情報発信	双葉町	情報発信（アーカイブ）拠点	○原子力災害の教訓等を継承等するための情報発信拠点を整備する。	○平成29年3月にアーカイブ拠点施設基本構想を策定。 ○平成29年度予算において、福島再生加速化交付金（807億円）の内数として、設計費等を計上。 ○平成32年度の運営開始を目指す。	
	浜通り等 (15市町村)全域	福島イノベーション・コースト構想に関する情報発信	○（一財）福島イノベーション・コースト構想推進機構を設立し、構想に関する情報発信を行う。 ○福島イノベーション・コースト構想の更なる推進に向けた「福島イノベーション・コースト構想シンポジウム」を開催する。	○平成29年7月25日に「（一財）福島イノベーション・コースト構想推進機構」を設立。 ○各展示会等においてブース出展し、福島イノベーション・コースト構想の取組をPR。現時点で、以下の展示会等でブース出展。 ・京都スマートシティエキスポ2017(平成29年9月28日,29日) ・いわき大交流フェスタ2017(平成29年10月28日) ・RIEFふくしま2017(平成29年11月8日,9日) ・ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2017(平成29年11月22日,23日) ○平成29年3月18日に、福島市において、シンポジウムを開催。平成29年度も開催予定。	
環境・リサイクル	浜通り等 (15市町村)全域	環境・リサイクル関連プロジェクト	○新たに研究会を設立し、産学官によるネットワークを形成し、浜通り地域を中心に新たな環境・リサイクル産業の集積を図る。 ○研究会を通じて、新たなリサイクル事業の実証や人材育成等を実施。	○県において「ふくしま環境・リサイクル関連産業研究会」（平成27年8月設立）を7回開催。平成29年8月末時点で、167企業・団体・市町村が参加。 ○平成28年5月には、同研究会にWGを設置し、4つのテーマについて事業化に向けた検討を実施。 ○地域復興実用化開発等促進事業において、WGの4テーマに関連する3プロジェクトを採択。そのうち福島エコクリート（株）については、石炭灰リサイクル製品（再生砕石）製造を行うための工場を、企業立地補助金の補助を受けて南相馬市に建設しており、平成30年3月16日に竣工式を開催予定。 ○平成29年度からは、浜通りにおけるリサイクル事業に不可欠な排出量等調査や各事業者に応じた事業可能性調査を実施。	
	浜通り等 (15市町村)全域	浜通りのポテンシャルを活かした産業の集積	○環境・リサイクル分野の実用化開発や企業立地等を推進。	○イノベ実用化開発補助金、自立・帰還支援企業立地補助金等により、浜通り地域への企業立地や先端的研究開発活動を支援（詳細後掲）。	○（平成29年3月6日）楡葉町において、エネルギー、環境・リサイクル分野を対象としたマッチングイベント（ふくしま未来ビジネス交流会）を開催。

# 福島イノベーション・コースト構想 各プロジェクトの進捗状況等

※赤字は第8回イノベ推進会議  
(2/11)時点からの進捗箇所。

分野	地域	プロジェクト名	事業概要	進捗状況	イベント等特記事項
エネルギー	浪江町	水素によるエネルギー貯蔵・効率的利用プロジェクト	○再エネ由来の水素を活用した実証事業の検討	【「福島新エネ社会構想」関連】 ○福島新エネ社会構想（平成28年9月資源エネルギー庁とりまとめ）において、水素社会実現のモデル構築を進めていくことを決定。 ○「再生可能エネルギーによる水素製造技術の開発・実証」等により支援。平成29年度予算において、47億円を計上。 ○平成29年8月、浪江町で、福島新エネ社会構想における再生可能エネルギーを利用した大規模水素エネルギーシステム開発の実証を実施することが決定。	
	新地町	スマートコミュニティ構築事業	○相馬新地町天然ガス（LNG）受入基地の建設を活用した熱電供給インフラ（ガスコジェネ等）の整備 ○相馬LNG基地から延びる天然ガスパイプラインを利用し、新地駅周辺で電気、熱の供給を面的に行うことを中心としたエネルギーシステムを構築。 ○LNG活用した復興まちづくり構想（新地LNGタウン構想）として、事業可能性調査を実施。	【「福島新エネ社会構想」関連】 ○新地町、楢葉町、相馬市、浪江町がマスタープランを策定。順次、構築事業へ移行中。 ○葛尾村が平成29年度中のマスタープラン策定に向け、新たに検討開始。 ○平成23年度補正（基金）において、80.6億円を計上。	
	楢葉町		○町の復興の要となるコンパクトタウンを核とした太陽光・蓄電池活用型エネルギーシステムの構築。		
	相馬市		○太陽光発電から再エネ水素を製造、災害時等に市庁舎や病院等の電力を燃料電池により供給。		
	浪江町		○道の駅・町役場を中心に再エネやEVの蓄電池活用、水素エネルギー利用により地域コミュニティの再構築を目指すふるさと再生型スマコミ。		
	葛尾村		○村中心部における公共施設を中心として、村内の再エネを地産地消するマイクログリッドの構築		
	阿武隈山地、沿岸部	（陸上風力） 風力発電拠点形成プロジェクト	○阿武隈山地や福島県沿岸部における風力発電や、避難指示解除区域等における太陽光発電等の再生可能エネルギー発電設備の導入支援及び当該設備に付帯する蓄電池・送電線の導入を支援するとともに、福島県内の新エネルギー関連技術について、事業化・実用化のための実証研究を支援	【「福島新エネ社会構想」関連】 ○「福島県における再生可能エネルギーの導入促進のための支援事業費補助金」により支援。平成29年度予算において、25億円を計上。 ○県においては、阿武隈地域と沿岸部を対象に風況調査や環境アセスメント調査を広域的に実施中。 ○導入支援事業（共用送電線）で、福島送電合同会社を送電線整備事業者へ採択、平成29年10月から共用送電線を順次着工予定。 ○導入支援事業（発電設備等）で、発電事業者に対する支援を実施。	

# 福島イノベーション・コースト構想 各プロジェクトの進捗状況等

※赤字は第8回イノベ推進会議  
(2/11)時点からの進捗箇所。

分野	地域	プロジェクト名	事業概要	進捗状況	イベント等特記事項
エネルギー	広野・ 楢葉沖	(洋上風力) 風力発電拠点形成プロジェクト	○世界初となる複数基による浮体式洋上風力発電所の本格的な実証を行うことにより、安全性・信頼性・経済性を明らかにし、世界をリードする発電技術の実用化を目指す。	【「福島新エネ社会構想」関連】 ○「福島沖での浮体式洋上風力発電システムの実証研究事業委託費」(平成28年度から平成30年度までの3年間の事業)により支援。 ○平成29年度から全ての実証機による検証を開始。 平成29年度予算において、24億円を計上。	
	南相馬市等	バイオマスプロジェクト	○国産バイオ燃料生産手段の一つとして期待される福島県の土着藻類を用いたバイオ燃料生産について、その実用化に向けて火力発電所等由来のCO <sub>2</sub> や熱、下水処理場等由来の下水を用いて経済性やエネルギー収支を向上させる実証事業を行う。 ○地域循環型メタン発酵ガス発電システムの普及	【「福島新エネ社会構想」関連】 ○平成27年8月、藻類バイオマス生産開発拠点が南相馬市原町区に完成。バイオマス燃料生産実証事業を継続中。 ○「微細藻類を活用したバイオ燃料生産のための実証事業費補助金」(平成28年度から平成30年度までの3年間の事業)により支援。平成29年度予算において、2.5億円を計上。 ○平成28年度より、県においてバイオガス発電事業化モデル事業補助金を創設し、設備導入及び事業可能性調査を支援。	
	未定	小水力発電導入拡大プロジェクト	○県有ダム、上下水道、農業水利施設等を活用した小水力発電導入促進	○平成29年度県予算(地域参入型再エネ導入支援事業)において、事業可能性調査、設備導入を支援。	
	南相馬市、 楢葉町、 富岡町、 浪江町、 大熊町	避難地域・再生可能エネルギー復興支援プロジェクト	○平成27年7月に、県において、「福島県再生可能エネルギー復興推進協議会」を設立。再エネ復興支援事業補助金により、これまで南相馬市、楢葉町、富岡町、浪江町、大熊町の事業者を支援。	【「福島新エネ社会構想」関連】 ○平成26年度補正予算「再生可能エネルギーの接続保留への緊急対応」の内数92億円(基金)により、福島県において、福島県再エネ復興支援事業補助金を創設し、現在も発電事業者に対し支援。	
	広野町、 いわき市 勿来	高効率石炭火力発電 (IGCC) プロジェクト	○広野・いわき市勿来の両地点に約54万KWの世界最新鋭の石炭ガス化複合発電(IGCC)プラントを1基ずつ建設・運用。 (新・総合特別事業計画に基づき東京電力が整備)	○平成27年8月、東京電力など5社により、IGCCプロジェクトの推進について基本合意書を締結 ○平成28年10月20日、IGCCプロジェクトにおける発電所建設・運営を実施する事業会社「勿来IGCCパワー合同会社」、「広野IGCCパワー合同会社」を設立。 ○平成29年4月、勿来IGCCが着工。平成32年9月の運転開始を目指す。	
	新地町	天然ガス(LNG)火力発電プロジェクト	○59万kWのコンバインドサイクル方式発電設備2基で構成される天然ガス(LNG)火力発電所整備プロジェクト。(石油資源開発(株)、三井物産(株)ほか3社出資による福島ガス発電(株)が整備)	○福島ガス発電(株)を平成27年4月に設立。 ○平成28年9月に環境アセス準備書を告示。 ○平成29年2月27日に環境アセス準備書に対する経済産業大臣の勧告が出された。 ○平成29年7月環境アセスメント完了。10月発電所本体建設工事着工。平成32年春の商業運転開始を目指す。	
	浜通り等 (15市町村)全域	浜通りのポテンシャルを活かした産業の集積	○エネルギー分野の実用化開発や企業立地等を推進。	○イノベ実用化開発補助金、自立・帰還支援企業立地補助金等により、浜通り地域への企業立地や先端的研究開発活動を支援(詳細後掲)。	○(平成29年3月6日)楢葉町において、エネルギー・環境・リサイクル分野を対象としたマッチングイベント(ふくしま未来ビジネス交流会)を開催。

# 福島イノベーション・コースト構想 各プロジェクトの進捗状況等

※赤字は第8回イノベ推進会議  
(2/11) 時点からの進捗箇所。

分野	地域	プロジェクト名	事業概要	進捗状況	イベント等特記事項
農 林 水 産 業	南相馬市、飯館村	水稲超省力・大規模生産プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロボット技術等を活用した省力化の実証</li> <li>○土壌センサー（GPSを用いた精密圃場管理）開発等</li> </ul>	<p>（両事業とも農水省先端農林業ロボット研究開発事業（平成28年度：1.0億円（復興特会）、平成29年度予算：0.9億円）を活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中型ロボットトラクタの開発実証 南相馬市：井関農機が試作機を開発。平成28年10～11月、<b>29年4月～6月</b>に南相馬市原町区上佐佐地区のほ場において現地実証を実施。</li> <li>○法面用除草ロボットの開発実証 飯館村：（国研）農業・食品産業技術総合研究機構が試作機を開発。平成28年8月～10月、<b>29年7月</b>に飯館村前田地区において現地実証を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロボットトラクタ現地実証見学会を浜通り地方で開催（平成28年11月南相馬市、<b>29年4月いわき市、7月富岡町、11月南相馬市</b>）</li> <li>○除草ロボット現地実証見学会を飯館村で開催（平成28年10月、<b>29年10月</b>）</li> </ul>
	南相馬市	畑作物大規模生産プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○播種・収穫ロボットの研究開発及び実証試験</li> <li>○収穫物に付着した土壌除去技術の実用化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中型ロボットトラクタの開発実証（上記に同じ）</li> <li>○その他（避難地域等でのジャガイモ等の大規模栽培について、付着土壌除去技術について情報収集中）</li> </ul>	（中型ロボットトラクタは上記に同じ）
	いわき市、大熊町、南相馬市、川内村等	環境制御型施設園芸構築プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○植物工場の導入</li> <li>○先端技術を活用した施設園芸の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○植物工場、施設園芸等の導入（強い農業づくり交付金、東日本大震災復興交付金、福島再生加速化交付金の活用） いわき市：平成28年度に低コスト耐候性ハウス（トマト、16,896㎡）が竣工。<b>28年度は、従業員30名を雇用し286tを出荷。</b> 大熊町：太陽光利用型植物工場（イチゴ、20,000㎡）は、平成29年度に栽培施設着工、平成31年度に栽培開始予定。 南相馬市：平成28年度に大型園芸施設（トマト、小ネギ等24,388㎡）が竣工。 川内村：環境制御型植物工場が平成25年度より稼働中。</li> </ul>	
	飯館村、葛尾村、川俣町等	フラワー・コースト創造プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食用以外への作物の転換</li> <li>○花き植物園の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境制御型花き園芸施設整備（福島再生加速化交付金等の活用） 飯館村：カスミノ（2,292㎡）、トルコギキョウ（1,404㎡）の栽培ハウス施設整備は平成29年1月竣工（17棟）。 <b>カスミノは平成29年7月に初出荷。</b> <b>鉢花等の栽培ハウス施設整備は平成29年7月竣工。</b> 葛尾村：胡蝶蘭栽培施設は平成29年8月に着工、12月に竣工予定。 川俣町：平成29年度よりアンズリウム栽培施設を整備中。 <b>（オール近大プロジェクトの一環）。</b></li> </ul>	○「いいたて村の道の駅までい館」が平成29年8月12日にオープンし、隣接する花卉栽培施設の花を販売。
	飯館村、葛尾村	阿武隈高地畜産業クラスタープロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT、ロボット技術等を活用した家畜の個体管理技術の開発・実証</li> <li>○ICT、ロボット技術等の導入モデル農場での実証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家畜の個体管理技術の開発およびモデル農場での実証 平成28年度からICタグやクラウド型ネットワークシステムを活用した個体管理システムを開発。<b>平成29年度は飯館村で現地実証を行うため、村・実証農家・業者と導入機器の仕様等について調整中。</b></li> </ul>	

# 福島イノベーション・コースト構想 各プロジェクトの進捗状況等

※赤字は第8回イノバ推進会議  
(2/11) 時点からの進捗箇所。

分野	地域	プロジェクト名	事業概要	進捗状況	イベント等特記事項
農 林 水 産 業	南相馬市	県産材の新たな需要創出プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○林業用ロボットの開発・導入</li> <li>○木質バイオマス利用施設の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○林業用ロボット（農水省先端農林業ロボット研究開発事業を活用） 南相馬市：苗木植栽ロボットについて、平成28年10月に鹿島区において現地実証を開始。</li> <li>○木質バイオマス利用施設の導入 南相馬市：メタン発酵による木質バイオマス活用の実証検討を実施中。</li> </ul>	
	浜通り等 (15市町村)全域		<ul style="list-style-type: none"> <li>○CLT等新技術の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○CLT等新技術の導入 CLT等新技術の導入に向けた検討を実施。また、CLT建築物の実証・展示を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○（平成28年11月29日、12月19日）CLT建築物（郡山ヘアメイクカレッジ）構造見学会、<b>（平成29年3月29日）完成見学会</b></li> </ul>
	相馬市、いわき市	水産研究拠点整備プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水産業の復興・再生に資する研究を行う施設等整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相馬市に水産種苗研究・生産施設を建設中。いわき市の県水産試験場の機能強化を目的とした施設等整備に向けた設計を実施中。</li> </ul>	
	浜通り等 (15市町村)全域	作業支援プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロボット技術の開発・導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業用アシストスーツの開発・実証 <b>（株）イノフィスが機器を開発。平成29年5月以降、南相馬市等3か所で現地実証を実施。</b></li> <li>○水田除草ロボットの開発・実証 <b>会津大学が機器を開発。平成29年5月から6月にかけて、広野町等3か所で現地実証を実施。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○（平成28年7月1日）会津大学ロボットシンポジウム</li> <li>○農業用アシストスーツの現地実証見学会の開催を検討中（11月頃、南相馬市）</li> <li>○水田除草ロボット現地検討会（6月7日、広野町、23名参加）</li> </ul>
	浜通り等 (15市町村)全域	浜通りのポテンシャルを活かした産業の集積	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農林水産業分野の実用化開発や企業立地等を推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自立・帰還支援企業立地補助金、イノバ実用化開発補助金等により、浜通り地域への企業立地や先端的研究開発活動を支援（詳細後掲）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農家や学生等が先端農業技術を知り、実際に見て触れることのできる体験型イベント「先端農業技術体験フェア」を平成29年8月に南相馬市で開催。</li> </ul>

# 福島イノベーション・コースト構想 各プロジェクトの進捗状況等

※赤字は第8回イノベ推進会議  
(2/11)時点からの進捗箇所。

分野	地域(機関)	プロジェクト名	事業概要	進捗状況	イベント等特記事項
大学研究	葛尾村 (東北大学)	中山間地域の農業振興のためのICT営農モデル開発	葛尾村においてICTを活用した生き物にやさしい農業(フィールドセンサー等を水田等に設置し、多様な農業生産手段をビッグデータ化、経験知に頼る農業から新規参入農業者にも容易に生産可能なシステムを開発)の実証試験を実施。 (平成28年10月 イノベ実用化補助金2次公募採択)	葛尾村内での水稲実証栽培を実施。あわせて村内農家と新しい農法にチャレンジ。フィールドセンシングなどは、葛尾村実証圃場周辺の工事により一時中断も、東北大学圃場(仙台市)では実証継続中。葛尾村では稲の収穫後にもフィールドにカメラを設置し、周辺の生物や害獣などの観測を行う。	(平成28年10月21日)東北大学大学院農学研究科と葛尾村による連携協定締結式開催
	飯舘村 (東京大学)	学民連携プロジェクト	東大農学生命科学研究科がNPO法人ふくしま再生の会とともに活動。 ①水稲栽培実験やハウス栽培等の農業支援 ②定点観測、車載測定等による放射線量の情報提供 ③農地土壌調査 ④牧畜再生支援	①イネの試験栽培を継続実施(平成24年～)やビニールハウスによる点滴型養液栽培の実施等 ②平成24年に車載測定を開始。25年から全村測定を開始。 ③平成29年度のイノベ実用化開発補助金を活用し、ICTを利用して遠隔農地の営農を支援するシステムの開発を実施。 ④除染後の農地土壌調査(残留セシウム濃度、排水性) ⑤牛の放牧地土壌改良実験	(平成29年10月22日)第16回ふくしま再生の会報告会「避難指示解除から半年、今何が課題か - 村民の声」(東大農学生命科学研究科共催)を開催
	川俣町 (近畿大学)	オール近大プロジェクト	①除染廃棄物仮置場から中間貯蔵施設への輸送問題についてバイオコース技術によって解決する方法を提案 ②放射線量測定用ガラスバッジによる放射線量測定 ③町の特産品になり得る農作物の試験栽培の実施	①環境省の事業として、実証実験を川俣町で実施。 ②平成23年6月に町内すべての園児、小・中学校の生徒へガラスバッジを配布。町の依頼により放射線量を測定、報告。 ③小島地区にビニールハウスを設置し、高糖度のトマトやポリエステル培地を使ったアンズリウムの栽培マニュアルを提供。	(平成29年5月16日)近畿大学と川俣町による連携協定締結式開催
	田村市 (慶應義塾大学)	ドローンの利活用に関する連携協力協定	①田村市と慶應義塾大学が相互発展に向けドローンの利活用に関する包括的な連携協力体制を構築。 ②田村市内唯一の高校(県立船引高校)の生徒に対し、ドローンの可能性、安全知識の付与及びドローン操縦技術の取得を目的とした特別講座(月1回)を2016年12月～2017年9月まで開校。 ③地域の消防団員に対する災害時ドローン訓練。	①今後、田村市の地域活性化、地域課題への対応、地域振興に係る研究・教育活動、地域人材育成に係る活動を実施。 ②開校後、初回の12月～9月までの10ヶ月間、ミニドローンを使った操縦講座、自動飛行プログラミング講座、観光PR映像の編集発表会に向けた空撮講座を実施。 ③市内総合防災訓練で消防団員によるドローン検索の実施、並びにドローン運用支援。	(平成28年12月21日)①連携協力協定締結式、②ドローン特別講座開校式、(平成29年10月)③総合防災訓練
	広野町 (早稲田大学)	「ふくしま広野未来創造リサーチセンター」の開所	平成29年5月、早稲田大学環境総合研究センターが、「ふくしま広野未来創造リサーチセンター」を開所。 今後、福島に根ざした持続可能な開発課題に対して中長期的なスタンスで向かい合い、福島県民とともに調査研究に取り組み、持続可能な地域再生のあり方を検討していく。	平成29年度「被災12市町村における地域のつながり支援事業」を活用し、地域住民、団体、NPO、ふたば未来学園などの生徒たちと大学研究者の研究会や高校生への直接指導を通じて、それぞれの立場における被災地の調査研究、未来構想に関する提案づくりなどを行う予定。	○(平成29年5月25日)「ふくしま広野未来創造リサーチセンター」開所式開催 ○(平成30年1月19日～20日)「ふくしま学(楽)会」開催予定。
	浜通り等(15市町村)全域	大学の研究活動等に関する調査	浜通り地域等における大学の研究活動等に関する調査を実施し、今後の継続的な活動の確保と活性化に向けて検討していく。	○これまで13大学の研究者にヒアリングを実施。 ○平成29年度中に、浜通り地域等における研究活動等に関する国際ワークショップを開催予定。	

# 福島イノベーション・コースト構想 各プロジェクトの進捗状況等

※赤字は第8回イバ推進会議(2/11)時点からの進捗箇所。

分野	地域(機関)	プロジェクト名	事業概要	進捗状況	イベント等特記事項
高等教育等	福島高専 (いわき市)	イノベーションへの対応学科再編	福島イノベーション・コースト構想を推進していく技術者の育成を行うため、工学系4学科を改組(名称変更)する。	平成29年4月に改組。学年進行のため、1年生のみ新教育課程で授業を開始。	
		廃止措置研究・人材育成等強化プログラム「廃炉に関する基盤研究を通じた創造的人材育成プログラム-高専間ネットワークを活用した福島からの学際的なチャレンジ-」	全国の高専(廃止措置人材育成高専等連携協議会・会長校)のハブとなり、JAEAの各拠点の利用等により、原子力発電所の廃炉に向けた基盤研究及び人材育成並びに地域貢献を行う。	平成29年度文科省事業(英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業)として、廃炉に関する基盤研究を通じた人材育成プログラムを実施。	平成28年12月3日に檜葉遠隔技術開発センターにて「第1回廃炉創造ロボコン」開催。平成29年12月16日に同所にて第2回を開催予定。
		地域の環境回復 原子力規制人材育成事業「地域の環境回復と環境安全に貢献できる原子力規制人材の育成」	本校立地上の特徴を踏まえて、地域の環境回復に貢献するとともに放射能モニタリングや放射性廃棄物の処理技術の修得により、放射線利用における安全性に配慮できる人材を育成する。	平成29年度原子力規制庁・原子力規制人材育成事業(地域の環境回復と環境安全に貢献できる原子力規制人材育成)として、①原子力規制に関する授業、②複合型インターンシップの実施、③COOP教育によるPBL型の学生研究等を継続して実施。	(平成30年1月11日)福島高専において、フォーラムを開催予定。
		“Kosen(高専)4.0”イニシアティブ「福島イノベーション・コースト構想を支える人材育成プログラム」	福島イノベーション・コースト構想の中でも再生可能エネルギーや次世代エネルギー技術の積極導入、先端技術を活用した農林水産業の再生、インフラ整備を支える人材を育成することによって地域に貢献する。	公募事業であり、平成29年度採択された。9月にプログラム運営委員会を立ち上げ、取組を開始した。予算の示達により設備の整備を行うとともに現場見学会や講演会を開催する予定。	
	県立テクノアカデミー浜 (南相馬市)	イノベーション・コースト構想に対応した職業訓練	イノベーション・コースト構想におけるエネルギーやロボット関連産業において、地元企業が参入・対応していくために必要と考えられる基盤技術を身につけた人材を育成する。	関連産業に対応した訓練カリキュラムの見直しや実習機器の整備により、指導内容の充実を図り、職業訓練を実施。	
高等学校	小高産業技術高校	小高産業技術高等学校におけるプロフェッショナル人材育成	福島イノベーション・コースト構想を担うプロフェッショナル人材育成に向け、工業科・商業科連携による「産業革新科」を新設し、大学や企業との連携によるロボット工学や情報技術等に関する教育を行う。	平成29年4月開校。文部科学省から「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」の指定(H29-H31)を受け、先端技術等に関する実践的な教育を実施。	
	ふたば未来学園高校	未来創造型教育	地域や社会の変革者たる人材育成のために、アクティブ・ラーニングを教育活動全体で展開し、主体性、協働性、創造性を育む。	平成27年4月に開校し、同年度~31年度までスーパーグローバルハイスクールの指定を受け、グローバルリーダー育成のための質の高いカリキュラム開発に取り組んでいる。 平成31年4月に併設中学校開校予定。	
	浜通り等 (15市町村)全域	ふくしまイノベーション人材育成事業	福島イノベーション・コースト構想を担うトップリーダー等の幅広い人材を育成するため、浜通り等の普通高校・工業高校・農業高校9校において特色ある教育プログラムを開発・実施する。	平成29年度において浜通り等の高等学校9校における可能性調査を実施する。(平成29年度予算において県が3千万円を計上。)平成30年度以降、本格的に教育プログラムを開発・実施していく。	
小・中学校	原子力被災12市町村	教育復興推進事業	地域の復興再生や福島イノベーション・コースト構想を担う人材を育成するため、特色ある教育の実現を支援する。	双葉地域8町村が連携したふるさと創造学等、双葉郡教育復興ビジョンによる取組の支援、原子力被災12市町村の小・中学校の魅力づくり支援等を実施。	
	浜通りを中心とする小・中学校	義務教育におけるイノベーション人材の裾野拡大	将来にわたり福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成を図るため、ロボット等の体験授業・コンテスト等を通じ、子ども達が研究者等にあこがれを持つきっかけ作りを行う。	平成29年度より事業実施。	
	原子力被災12市町村	先進的な教育の推進に向けた「ICT教育コーディネーター」モデル事業	避難地域の小・中学校において実施しているICTを活用した教育活動について、より効果的に実施し、教育の魅力化につなげるため、学校等に専門コーディネーターを派遣する。	平成29年度復興庁事業により、コーディネーターによる学校訪問等を実施。(平成29年度事業費約2千5百万円)	

# 実用化開発プロジェクトの概要

◎市町村毎の採択プロジェクト例 (29年度採択件数:67件(うち28年度からの継続案件は35件))

- ロボット分野
- エネルギー分野
- 環境・リサイクル分野
- 農林水産業分野
- 医療機器等分野
- 環境回復等分野



● : 平成29年度の新規採択案件  
○ : 平成28年度からの継続案件

※29年度の採択案件について、実証地点をプロット

- 【**いわき市**】2 4 件
  - デジタルグリッドルーター(DGR)を用いた自立分散型エネルギーシステム実用化開発事業 佐藤燃料(株)
  - 在宅メデイケアシステム開発 福島コンピューターシステム(株)、コニカミルタ(株)
  - 日産リーフ使用済みリチウムイオンバッテリーによる電源開発 日産自動車(株)
- 【**相馬市**】4 件
  - 災害救援物資輸送ダクトド・ファンUAVの実用化開発 (株)IHI
  - 発電用燃料としての建設廃棄物からの高品質RPF(廃プラスチック固形化燃料)製造技術の開発 (株)タケエイ
- 【**田村市**】3 件
  - ドローンによるアグリセンシングの研究開発 (株)糺の森、慶應義塾大学SFC研究所
  - 耐気候型屋内農場における大型イチゴ生産の自動化 プランツラボラトリー(株)
- 【**南相馬市**】2 3 件
  - ドローンおよび無人地上車輻による害獣対策と物資輸送サポート技術の開発 (有)ワインデング福島、(株)エンルートM's
  - 配送業務の高度化に向けた無人航空機活用検証 日本郵便(株)
  - 非常用マグネシウム燃料電池 ヘースユニットの開発 (株)シンエイ、YTS International (株)
- 【**広野町**】2 件
  - 自律型ドローンロボットにより山岳救助を劇的に効率化する「捜索支援システム」の開発実用化事業 エム・デー・ビー(株)
  - UAVを利用した災害時即時情報収集 (株)大和田測量設計
- 【**楢葉町**】1 件
  - 無人飛行体をプラットフォームとする放射線分布の3D可視化技術の開発 (株)千代田テクノル、(国研)日本原子力研究開発機構
- 【**富岡町**】2 件
  - ドローンによる地形・画像計測と放射線量測定による広域空間線量の取得手法の開発 (株)ふたば
  - 農林資源の有効成分への高効率な転換事業の実用化 グリーンアーム(株)
- 【**川内村**】1 件
  - IoT技術をベースとしたスマート農業による高機能性野菜生産の実証試験 エコエネルギーシステムズ(株)
- 【**大熊町**】1 件
  - 炉外汎用廃炉用ロボットの開発 (株)IHI、東京パワーテクノロジー(株)
- 【**浪江町**】4 件
  - UAVを使用したイノシシ等の生息状況観測技術の開発 (有)ヨシダ電子、フジインバック(株)
  - ドローン用超軽量機材と小型燃料電池システムの開発 (株)星山工業
- 【**葛尾村**】1 件
  - 中山間地域の農業振興のための新ICT「自然と共生した高付加価値営農モデル」の開発 東北大学大学院農学研究科東北復興農学センター、(株)SJC、(株)NTTドコモ、トライボッドワークス(株)
- 【**飯館村**】1 件
  - 安全な農畜産物生産を支援するICT営農管理システムの開発 東京大学大学院農学生命科学研究科

# イノベ実用化補助金 平成29年度採択プロジェクトの概要 ①

分野	分類	実証地域	プロジェクト名	実施事業者	事業概要
ロボット	継続	いわき市	自動運転車(ロボットカー)向けシステム開発	アルパイン(株)【いわき市】	○自動運転の実用化に向けた開発が各社で行われている背景を踏まえ、自動運転車両の制御システム開発を目指す。
ロボット	継続	いわき市	マルチコプター型UAV自動航行システムの開発	アルパイン(株)【いわき市】	○マルチコプター型UAV市場の発展を見込み、自動航行システムの開発を進めてインフラ整備等実用的な場面での活用を目指す。
ロボット	継続	いわき市	デマンド交通を実現するモビリティ技術開発	アルパイン(株)【いわき市】	○少子高齢化社会の拡大により、電動車いす等のパーソナルモビリティの普及が不可欠になったという背景を踏まえ、最新のICT技術を駆使したモビリティ開発を進める。
ロボット	継続	いわき市	IJH-CLロボットを搭載したライン型フルカラーデジタルオンデマンド印刷システムの実用化開発	(有)品川通信計装サービス【いわき市】イオス(株)【埼玉県】	○世界初の段ボール用1Passインクジェットフルカラー印刷機の実用化を行う。印刷不良を検知すると自動で印刷ヘッドのノズル清掃を行う移動式清掃ロボットを開発し、現場の稼働効率を上げた装置供給を目指す。
ロボット	継続	いわき市	ドローン開発拠点の実現に向けた実証実験～ロボット制御ソフトウェア基盤のRTM-ROS2相互連携開発～	(株)東日本計算センター【いわき市】	○今後ドローンを活用する社会の到来が予想されることを踏まえ、ロボット制御の代表的な2つの基盤ソフトウェアを相互で実行できる連携ソフトウェアの開発を行う。
ロボット	新規	いわき市	インテリジェントアシスト駆動ユニットの実用化開発	(株)鈴木電機吾一商会【いわき市】	○山林火災対応ロボット「がんばっぺ1号」の研究開発で得られた技術を応用して、市販の台車等に取り付けが容易で、力と姿勢安定化の両面からインテリジェンスに安全にアシスト動作を行う、汎用電動アシスト駆動ユニットの実用化開発を行う。
ロボット	継続	相馬市	災害救援物資輸送ダクトド・ファンUAVの実用化開発	(株)IHI【相馬市】	○震災時に孤立した被災者へ救援物資が届けられなかった事例を踏まえ、物資保持機構を搭載した無人航空機の開発を目指す。
ロボット	新規	田村市	ドローンによるアグリセンシングの研究開発	(株)糺の森【田村市】学校法人慶應義塾慶應義塾大学SFC研究所【田村市】	○農業用ロボットとしての、ドローンポート・自律航行ドローン・マルチセンサ付ドローンの統合技術開発や、グリーンパーク都路での実証試験を行う。これによりアグリセンシング技術を構築し、精密農業の礎とする。
ロボット	継続	南相馬市	マッスルスーツの高機能化・高性能化のための実用化技術開発	(株)イノフィス【南相馬市】	○工場や医療福祉現場での労働環境悪化により離職率増加が進んでいるという背景を踏まえ、マッスルスーツの高機能化・高性能化に向けた開発を進める。
ロボット	継続	南相馬市	ドローンおよび無人地上車両による害獣対策と物資輸送サポート技術の開発	(株)エンルートM's【福島市】(有)ワインディング福島【南相馬市】	○野生鳥獣による農作物被害が拡大している現状を踏まえ、ドローン及び無人車両による害獣対策と物資輸送サポート技術の開発を目指す。
ロボット	継続	南相馬市	ロボットを活用した半凝固鑄鍛成型の生産システム実用化開発	日本オートマチックマシン(株)【南相馬市】	○強度・軽量化・コストの面で質の高い商品を開発して欲しいという市場の要求を踏まえ、ロボットを活用した半凝固鑄鍛成型の生産システムの実用化開発を目指す。
ロボット	継続	南相馬市	海洋調査を目的とした無人観測船の開発	(国研)日本原子力研究開発機構【南相馬市】(株)ウインディーネットワーク【静岡県】	○福島浜通り地域において水産業等の再開のため、基礎データを収集し、海洋調査のための無人観測船の開発を目指す。
ロボット	継続	南相馬市	多様な作業を可能にする4腕極限作業ロボットの実用化開発	フューチャーロボティクス(株)【南相馬市】	○災害現場の瓦礫処理などで活躍することを目的とした、4本アーム・6つのクローラを有するロボットの実用化を提案する。特に廃炉現場での瓦礫処理に焦点を当て、必要な改良・試作を進める。

# イノベ実用化補助金 平成29年度採択プロジェクトの概要 ②

分野	分類	実証地域	プロジェクト名	実施事業者	事業概要
ロボット	新規	南相馬市	超小型・半自律・耐放射線性の水中ロボットシステムの開発	(株)タカワ精密【南相馬市】(株)東日本計算センター【いわき市】	○福島第一原子力発電所内のベネトレーション（格納容器貫通孔）から格納容器（PCV）内に侵入し、格納容器（PCV）内部調査やデブリサンプリングを補助可能な、超小型半自律の耐放射線性の水中ロボットシステムを開発する。
ロボット	新規	南相馬市	配送業務の高度化に向けた無人航空機活用検証	日本郵便(株)【南相馬市】	○無人航空機による郵便物（荷物）の配送実現のため、運航管理に係る機能の開発、飛行準備要領、輸送形態及び郵便物（荷物）の授受方法、長距離飛行、様々な気象条件下での運用の検証を行い、2018年度の試行運用をめざす。
ロボット	新規	南相馬市	量産を見据えた高信頼性マルチコプター実用化開発	(株) 菊池製作所【南相馬市】	○現状のマルチコプターは海外製の部品等を使用していることが多く、実用化にはシステム全体の製品寿命や各部品性能の信頼性など製品保証の課題がある。これを踏まえ、部品の消耗状態や故障を把握し自己診断機能を有する、量産を見据えた高信頼性マルチコプターの実用化開発を目指す。
ロボット	新規	南相馬市	UAVのSLAM制御による点検技術の開発	Terra Drone(株)【南相馬市】	○SLAM技術を活用した非GNSS環境での制御・衝突回避機能を保有したUAVを開発する。福島県におけるインフラ・施設の点検に活用可能性があるのと同時に、ニーズは世界各国であると想定され、機体製造を浜通りで行うことで地元経済にも貢献を図る。
ロボット	新規	広野町	自律型ドローンロボットにより山岳救助を劇的に効率化する「搜索支援システム」の開発実用化事業	エム・デー・ビー(株)【広野町】	○山岳、丘陵地域での道迷い人、遭難救助者を支援するために、自力帰還支援のスマホアプリから、自力帰還が困難な状況に対応するドローンロボットによる空からの搜索システムまでを提供、搜索時間の短縮、早急な救助を実現する。
ロボット	新規	広野町	UAVを利用した災害時即時情報収集システムの技術開発	(株) 大和田測量設計【広野町】	○洪水、斜面崩壊、土石流、山火事などの自然災害時に、災害の状況をUAVで取得し、関連機関（市町村、警察、消防等）への情報提供を迅速に行うことが可能なシステムを開発する。
ロボット	継続	檜葉町	無人飛行体をプラットフォームとする放射線分布の3D可視化技術の開発	(国研)日本原子力研究開発機構【富岡町】(株)千代田テクノ【東京都】	○福島県では迅速かつ簡便に放射線をイメージする技術が求められているという現状を踏まえ、無人飛行体による放射線分布の3D可視化技術の開発を目指す。
ロボット	新規	富岡町	ドローンによる地形・画像計測と放射線量測定による広域空間線量の取得手法の開発	(株)ふたば【富岡町】	○浜通り地域の復興・創生を支援する取り組みとして、UAV（ドローン）にレーザスキャナや放射線測定機器等を搭載のうえ、地形・植生に対応した放射線量分布を測定・解析し、地元企業として風評被害の払拭、住民帰還の促進、農林業の再生等の施策に貢献する。
ロボット	新規	浪江町	UAVを使用したイノシシ等の生息状況観測技術の開発	(有)ヨシダ電子【浪江街】フジ・インパック(株)【神奈川県】	○IRカメラ（赤外線カメラ）等のセンサを搭載した固定翼無人航空機（UAV）によってイノシシ等の野生動物の生息状況を観測することが可能なシステムを開発する。開発したシステムを試験運用し、その効果を検証する。
ロボット	新規	浪江町	自動運転に係る情報基盤の構築及びまちなか巡回車輻の実用化に向けた実証実験	Haloworld(株)【いわき市】(株)会津ラボ【会津若松市】	○自動運転車輻が利用可能な情報基盤の構築を行い、情報の相互利用性を高めることで将来的な自動運転に係るコスト低減を目指す。初年度は自動運転車輻1台による2km圏における巡回運行を行い、順次車輻の追加、運行ルートの拡大を実施する。
ロボット	新規	浪江町	ドローン用超軽量機材と小型燃料電池システムの開発	(株)星山工業【南相馬市】	○最大離陸重量25kg未満の無人航空機（ドローン）の長時間飛行と制限重量内における積載量の増加を目指して、超軽量炭素繊維複合材料と小型燃料電池からなる電源供給システムで構成される高性能ドローンの開発を進める。

# イノベ実用化補助金 平成29年度採択プロジェクトの概要 ③

分野	分類	実証地域	プロジェクト名	実施事業者	事業概要
エネルギー	継続	いわき市	福島阿武隈、浜通り、風力発電構想の発電タワーの国産化に向けた実用化開発	会川鉄工(株)【いわき市】	○福島県の「阿武隈、浜通りエリア風力発電構想」における風力発電タワー受注獲得を目標とした、小型・大型タワーの実用化開発を行う。
エネルギー	継続	いわき市	小型バイオマス発電システムの商業化に向けた開発計画	共栄(株)【いわき市】	○採算性、残渣調達の困難性などの問題から普及の進んでいない食品残渣を使ったバイオマス発電システムについて、残渣の調達が容易な小型プラントで、建設コストが安く、ランニングコストの低い高効率なプラントを開発し、バイオマス発電の実用化を目指す。
エネルギー	継続	いわき市	デジタルグリッドルータ(DGR)を用いた自立分散型エネルギーシステム実用化開発事業	佐藤燃料(株)【いわき市】	○2040年に一次エネルギーにおける再生可能エネルギーを100%にするという福島県の目標を踏まえ、デジタルグリッドルータ(DGR)といった発電技術を用いた自立分散型エネルギーシステムの実用化開発を目指す。
エネルギー	新規	いわき市	新規なフッ素樹脂の開発とその製造技術	(株)クレハ【いわき市】	○蓄電デバイス用途を中心にエネルギー分野材料に適した新規なフッ素樹脂製造の事業化を目標として、卓越した重合技術を駆使したポリマー改質による高機能・高性能化、競争優位性に優れた独創的な製造技術の開発を行う。
エネルギー	新規	いわき市	無線通信制御方式改善による電池寿命延長の実証	ボックス情報システム(株)【いわき市】	○電池駆動型無線通信システムにおいて、親機と子機の双方向通信時の電池寿命が課題となっている。当該課題を解決することで、風力発電装置の軸受など電源供給が難しい場所における状態監視・センシングが可能になり、発電装置の最適な運転条件を検証することができる。
エネルギー	継続	相馬市	再生可能エネルギー活用による水素製造システム実用化開発	(株)IHI【相馬市】	○相馬市の復興と発展を推進すべく、先進水素研究促進、水素社会への対応検討、地域の系統連系制約への配慮、および交流人口増への貢献をめざし、再生可能エネルギー活用による高効率な水素製造システムの構築、実証事業を提案する。
エネルギー	新規	相馬市	発電用燃料としての建設廃棄物からの高品質RPF(廃プラスチック固形化燃料)製造技術の開発	(株)タケエイ【相馬市】	○従来RPF製造に不向きとされる建設廃棄物から高品質なRPFを製造し、それを燃料に廃棄物発電することで、安価なクリーンエネルギーかつベース電源を確保することができる。この電気については基本的に地元で使用してもらうことで、地産地消型の発電モデルを確立するとともに、電気水素製造への利用も検討する。
エネルギー	新規	南相馬市	農林残渣を対象とする有価物抽出・高熱量ペレット燃料製造連続処理系の技術開発	創イノベーション(株)【南相馬市】	○当社独自技術の準連続式亜臨界水熱爆砕法により、エネルギー作物残渣からの高熱量ペレット燃料生産、リン等有価物抽出を実現し、浜通り地域内でのエネルギー作物栽培事業、地産バイオマス活用事業を可能にする。
エネルギー	新規	南相馬市	非常用マグネシウム燃料電池 ベースユニットの開発	(株)シンエイ【南相馬市】 YTS International(株)【東京都】	○停電時に数日間、照明、テレビ、調理などに使用可能な数百ワット出力を持ち、かつ燃料交換により何度も使用可能な電池の試作に成功している。本事業では、未経験者でも簡単な操作ですぐにでも使える電池の実用化を目指す。
環境・リサイクル	継続	いわき市	新規な環境適合性樹脂の開発	(株)クレハ【いわき市】	○海中に存在するプラスチックごみによる環境汚染への懸念が高まってきているという背景を踏まえ、環境適合性樹脂の開発を目指す。
環境・リサイクル	継続	いわき市	環境配慮型合成樹脂製造プロセスの開発	(株)クレハ【いわき市】	○合成樹脂の製造において、より環境負荷の小さいプロセスが求められている背景を踏まえ、環境配慮型合成樹脂製造プロセスの実証開発を目指す。
環境・リサイクル	継続	いわき市	炭素繊維リサイクル技術の実証開発	(株)クレハ環境【いわき市】	○炭素繊維の市場拡大に伴い、炭素繊維廃棄物が大幅に増加しているという背景を踏まえ、炭素繊維リサイクル技術の実証開発を目指す。

# イノベ実用化補助金 平成29年度採択プロジェクトの概要 ④

分野	分類	実証地域	プロジェクト名	実施事業者	事業概要
環境・リサイクル	継続	いわき市	植物由来・持続型資源新素材「ケナフ・ナノセルロース」の混合技術の実用化開発	トラスト企画(株)【いわき市】	○ナノセルロースは加工に多くのコストがかかる木材を原料にする研究しか行われていないという現状を踏まえ、加工が容易なケナフを使ったナノセルロースの混合技術の実用化開発を目指す。
環境・リサイクル	新規	いわき市	日産リーフ使用済みリチウムイオンバッテリーによる電源開発	日産自動車(株)【いわき市】	○本事業の目的は、寿命を迎えた電気自動車日産リーフに搭載されているリチウムイオンバッテリーを再利用することである。再利用の用途は、受変電設備の非常用電源とする。今年度は弊社いわき工場へ製品導入・実証試験を行い、次年度以降に規格認証や事業化計画策定を実施する。
環境・リサイクル	継続	相馬市	地域の再生可能エネルギーの最大活用を目指した下水汚泥処理システムの実用化開発	(株)IHI【相馬市】	○相馬市の復興と発展を推進すべく、下水汚泥によってコストの低減や温室効果ガス対策を目指し、合わせて地域の系統連系制約への配慮し、再生可能エネルギー活用による下水汚泥処理システムの構築、実証事業を提案する。
環境・リサイクル	継続	南相馬市	総合リサイクルセンターの処理スキーム開発	太平洋セメント(株)【東京都】(株)高良【南相馬市】	○持続可能社会の実現に向けて資源効率の最大化を進める必要があるため、総合リサイクルセンターの処理スキームの開発を目指す。
環境・リサイクル	継続	南相馬市	石炭灰リサイクル製品(再生砕石)製造技術の開発	福島エコクリート(株)【南相馬市】新和商事(株)【相馬市】(一財)石炭エネルギーセンター【東京都】日本国土開発(株)【東京都】	○石炭火力発電所から発生する多様な品質の原粉(フライアッシュ)の利用に際し、安定した製品品質の確立が発電事業者から求められている。このためには、原粉性状毎に異なる石炭灰リサイクル製品の適切な製造条件をデータベース化することが重要であり、この作業を通して石炭灰リサイクル事業の実用化開発を目指す。
環境・リサイクル	新規	富岡町	農林資源の有効成分への高効率な転換事業の実用化	グリーンアーム(株)【富岡町】	○福島県浜通り地域内における森林資源及び農産物の廃棄物等を、高温好気性菌の特徴を生かし、高効率でメタン、エタノール等の有効成分に変換させる。変換後のメタン、エタノール等は更に発電用、燃料用に活用する。
環境・リサイクル	新規	浪江町	ハイブリット処理による未利用資源(コンクリートガラ、石炭灰等)の建設資材としての有効利用事業の研究開発	(株)ダイイチ【浪江町】	○コンクリートガラから良質の再生粗骨材を製造し、これを用いたコンクリートを作製・販売する。残った細粒分に石灰炭および銅スラグなどの未利用資源およびセメントを混合し、硬化・破碎・粒度調整後、建設材料として販売する。
農林水産	継続	いわき市	いわきイノベーション農業福祉構想実用化開発(大規模太陽光利用型植物工場の先行開発検証と実施設計)	(株)イノベーション農業福祉研究所【いわき市】	○浜通り地域を復興させるために大規模先端農業を事業化する必要があるという地域住民の要望を踏まえ、太陽光利用植物工場による農業構想の実現を目指す。
農林水産	継続	いわき市	サケマス魚類循環濾過養殖プラントの実用化	(株)林養魚場【いわき市】	○サケマス魚類の生産量を上げるためには計画的に種苗の生産を行う必要があるという背景を踏まえ、飼育水を繰り返し使用する循環濾過養殖プラントの実用化を目指す。
農林水産	新規	いわき市	中大規模木造建築物に対応した新たな接合方式の開発	(株)ダイテック【いわき市】	○建設需要に対する恒常的な労務不足への対応や、建設部門が取り組むべき地球温暖化への貢献など、昨今の社会状況を踏まえ、製作時及び施工現場での労務量の大幅な削減と規格部材のリユースによる環境負荷の低減を可能にする新たな接合方式の実用化開発を目指す。
農林水産	継続	田村市	縦ログ構法に関する技術開発と縦ログ生産ネットワーク体制の構築	(株)芳賀沼製作【田村市】(有)たむら農建【田村市】合同会社良品店【田村市】	○通常のログハウスと異なり縦向きに木材を並べて壁を作るという縦ログ構法に、生産体制や精度面に課題が有るという背景を踏まえ、安定供給できる生産体制を確立し、林業の活性化を目指す。
農林水産	新規	田村市	耐気候型屋内農場における大型イチゴ生産の自動化	プランツラボラトリー(株)【田村市】	○寒冷地域において、通年で大果イチゴを生産するため、栽培～収穫・出荷までの工程を自動化し、耐気候型の低コスト屋内農場を建設する。これに、G-GAP取得支援メニューを組み合わせた生産者支援統合サービスを課金式で提供する事業を構築する。

# イノベ実用化補助金 平成29年度採択プロジェクトの概要 ⑤

分野	分類	実証地域	プロジェクト名	実施事業者	事業概要
農林水産	新規	南相馬市	デジタルアグリによる大規模水稲生産効率化	(株)スペースエンターテインメントラボ トリー【南相馬市】(株)神明【兵庫県】	○圃場等のデータを統合し、営農での意思決定を支援するデジタル情報基盤、営農経験の少ない生産者でも早期技能習得が可能なノウハウ共有、及びG-GAP認証取得が可能な業務標準化支援をセットにした課金式サービスを構築。
農林水産	新規	南相馬市	自然エネルギーを活用した、IoT営農による産地化促進プログラム「AgriNova」(日本語名「アグリノバ」)の実用化開発	(株)馬淵工業所【宮城県】福相建設(株)【南相馬市】	○再生エネ活用による与圧式二重構造育苗施設は、病虫害防護と安定環境下でのIoT管理育苗を実現。定植後迄の生育トレースを行う産地化促進プログラムと併せ、花卉と資源作物の栽培実用化に向け相双地域の新作物試験栽培のブランド化を目指す。
農林水産	新規	南相馬市	中赤外ハイパースペクトルカメラとドローンを活用した農地の土壌成分分析と農薬散布との連携システムの実用化開発	(株)ミライト・テクノロジーズ【大阪府】 農事組合法人あいアグリ太田【南相馬市】(株)空撮技研【香川県】	○特殊カメラ(ドローンに搭載)による土壌成分分析の実効性を確保し、生育状態の把握・成長予測や農薬散布ドローンとのシステム連携を併せ実現することで、営農の低農薬化・省力化を目指す(地元の農業高校も参加し将来人材の育成も志向)。
農林水産	継続	川内村	IoT技術をベースとしたスマート農業による高機能性野菜生産の実証試験	エコエネルギーシステムズ(株)【いわき市】	○農業生産者の高齢化や担い手の減少により、中山間地域における小規模農業生産は厳しい現状がある。このような背景を踏まえ、地域の気象特性や自然エネルギーを最大限に活かした農業生産手法にもとづき、高機能性野菜の試験栽培、および生産から流通までを視野に入れたスマート農業の実用化試験に取り組む。
農林水産	継続	葛尾村	中山間地域の農業振興のための新ICT「自然と共生した高付加価値営農モデル」の開発	国立大学法人東北大学大学院農学 研究科東北復興農学センター【葛尾村】(株)SJC【宮城県】(株)NTTドコモ【東京都】トライボッドワークス(株)【宮城県】	○ICT(情報通信技術)とRT(ロボット技術)を有機農産物の生産現場に適用することで、中山間地域に適した小規模分散型の生産スキームを構築する。有機栽培を実施する圃場では、生物多様性の維持増進に高度に貢献するため、そこで生産される食料にも新たな市場性を付与することが期待できる。
農林水産	新規	飯館村	安全な農畜産物生産を支援するICT営農管理システムの開発	国立大学法人東京大学大学院農学 生命科学研究所【飯館村】	○ICTを利用して遠隔農地の営農を支援するシステムを開発する。本システムにより、避難先から飯館村に通って営農を再開する農家が水田・ハウス・牧草地における農作物の生育状況を確認し、管理作業を遠隔操作できるようにする。
医療機器	継続	いわき市	移乗機能とリハビリ機能を備えた電動アシスト車いす開発	会川鉄工(株)【いわき市】(株)鈴木電機 機吾一商会【いわき市】	○介護現場における介護者の肉体的負担が大きいという背景を踏まえ、移乗機能を備えた電動アシスト車いすの開発を目指す。
医療機器	継続	いわき市	福島県内100%部品調達に向けた移乗介助・移動支援・見守り支援機器実用化開発	(株)アイザック【いわき市】	○介護現場(医療・福祉施設等)において利用者様の移乗時の転倒リスクや移動の自立性、移動の介助負担がかかっているため、移乗・移動支援や介助支援機器の実用化開発を目指す。
医療機器	継続	いわき市	在宅メディケアシステム開発	福島コンピューターシステム(株)【いわき市】 コココムルタ(株)【東京都】	○福島県の高齢化率が全国平均を上回っているという事例を踏まえ、クラウドを介して在宅高齢者の健康状態を遠隔モニタリングする在宅メディケアシステムの開発を目指す。
医療機器	新規	いわき市	在宅医療・救急医療における医療用冷陰極X線管および携帯型冷陰極X線源の開発	(株)ピュアロンジャパン【いわき市】つくば テクノロジー(株)【茨城県】	○小型軽量で持ち運びができ、且つ乾電池駆動可能なカーボンナノ構造体を用いた医療用冷陰極X線管を開発し、これにより予熱なくすぐにX線撮影ができる省電力・長寿命の画期的な医療用X線撮影装置の製品化を実現する。
医療機器	新規	いわき市	地域医療を支える往診型一次救急支援、遠隔による診療・決済、及び高齢者見守りシステムの開発事業	(株)HealtheeOne【いわき市】	○モバイル端末を接続したクラウド型システム及びいわき市に設置したオペレーションセンターにおける人的作業を複合的に活用した(i)夜間休日の往診型一次救急支援システムの開発、(ii)DtoNtoPを想定した遠隔による診療・決済システムの開発、及び(iii)高齢者の見守りシステムの開発を目指す。

# イノベ実用化補助金 平成29年度採択プロジェクトの概要 ⑥

分野	分類	実証地域	プロジェクト名	実施事業者	事業概要
医療機器	継続	南相馬市	リズム歩行支援ロボットWalk-Mateの社会実装に向けての製品化モデル構築事業	WALK-MATE LAB(株)【南相馬市】	○歩行障害を有した患者や高齢者の転倒予防を進める必要があるという背景を踏まえ、歩行リズムに同調させ歩行支援を行うリズム歩行支援ロボットの製品化を目指す。
医療機器	継続	南相馬市	介護施設内運搬ロボットシステムの商用化とその社会実装	SOCIAL ROBOTICS(株)【南相馬市】	○多くの介護現場において本来の介護行為以外に多くの間接業務があり、慢性的な人員不足で職員が疲弊している。このため事業者側は雇用継続懸念、サービス低下等のリスクを抱えている。提案するロボットは、これらの間接業務を補助し、職員の負担を軽減し、サービスの質向上を実現する。
医療機器	継続	南相馬市	被災地住民の帰還を促進する医療とロボット産業の統合実証事業	(株)ヘルステクノロジー【南相馬市】	○震災後の避難生活における介護予防・日常生活支援が問題となっている背景を踏まえ、自立支援介護予防促進による健康産業都市の実現に向け、様々な介護予防機器の開発を目指す。
医療機器	新規	南相馬市	福島県浜通り地域から世界に発信する、安全・安心・低侵襲な歯科インプラント手術を行うためのナビゲーションシステム実用化開発	Safe Approach Medical(株)【南相馬市】	○歯科インプラント治療において、インプラント埋入位置を容易に設計でき、手術時ドリルの先端位置をリアルタイムにナビゲーションする、安全・安心・低侵襲な手術支援システムを実用化開発する。
医療機器	新規	南相馬市	超音波画像情報を提示する穿刺支援用3D-ARシステムの実用化開発	TCC Media Lab(株)【南相馬市】	○これまで開発した超音波画像情報を提示する穿刺支援用3D-ARシステムの小型化改良や実証評価を実施する。臨床に使用可能なHMDシステムを製作し、臨床現場の医師に本システムを配布することにより、HMDシステムの評価を実施し、薬事申請を行う。平成31年度から、システムの販売を開始するものである
環境回復	継続	南相馬市	高濃度放射能物質の管理のためのロボット技術(遠隔操作)による放射能可視化システムの開発	(株)テクノエクス【南相馬市】	○空間線量率2次元マップでは、3次元位置や線源種類の特定はできない。そこでマルチカメラ式ガンマカメラの3次元放射能濃度分布計測とロボット利用無リスク計測を併せた可視化法を開発し、空撮や高BG雰囲気下での汚染物・高濃度集積物の管理を目指す。
環境回復	新規	南相馬市	『放射線遮蔽型ウェアラブル・ユニフォーム』の実用化に向けた商品開発による、原発廃炉作業の迅速化・効率化と快適性・安全性の向上	福島ミドリ安全(株)【郡山市】(株)菊池製作所【飯館村】タカヤ(株)【岡山県】	○福島復興の見える化を加速化するために、ユニフォームとセンシング・モニタリング・コミュニケーション(通信)技術を合体融合させた「放射線遮蔽型ウェアラブル・ユニフォーム」の実用化に向けた商品開発事業。
環境回復	新規	大熊町	炉外汎用廃炉用ロボットの開発	(株)IHI【相馬市】東京パワーテクノロジー(株)【大熊町】	○今後、原子炉建屋内などの線量の高い場所での不要物撤去などの本格作業が開始される。その作業に伴う作業員の被ばく低減を目的として、必要となる本格作業の可能な遠隔操作性の高いロボットの開発、現地適用検討を行う。また、その結果ロボットの運用と補修を迅速に行うために、地元の企業が運用する体制を構築する。

# 福島イノベーション・コースト構想における産業集積の状況①（産業団地整備）

○福島再生加速化交付金等を活用し、浜通り15市町村の産業団地整備が進んでいる。

<産業団地図>



自治体名	名称	用地面積	完成予定	募集区画/面積
いわき市	①いわき四倉中核工業団地第1期区域 ②いわき四倉中核工業団地第2期区域	33.6ha 17ha	整備済み 平成30年3月	なし 3区画 (17ha)
相馬市	③相馬中核工業団地西地区 ④相馬中核工業団地東地区 ⑤相馬南第二工業団地	68.5ha 284.7ha 5.5ha	整備済み 整備済み 整備済み	募集停止中 ※平成29年度内募集再開予定 なし なし
田村市	⑥田村市産業団地 ⑦田村西部工業団地	12ha 64.1	平成31年度末 整備済み	6区画 (8.6ha) なし
南相馬市	⑧信田沢工業団地 ⑨南相馬市復興工業団地 ⑩下太田工業団地	4.6ha 48.6ha 10.4ha	整備済み 平成30年度末 平成30年度 ※一部、平成26年度整備済み	なし 区画数未定 (12ha) なし
川俣町	⑪西部工業団地 ⑫羽田産業団地 ⑬飯坂工業団地 ⑭中山工業団地 ⑮山木屋工業団地	7.7ha 1.9ha 13ha 3.2ha 1ha	整備済み 整備済み 整備済み 整備済み 整備済み	2区画 (5.3ha) なし なし 3区画 (0.4ha) なし
広野町	⑯広野工業団地 ⑰広野駅東側産業団地	3.5ha 5ha	整備済み 整備済み	なし 3区画 (0.9ha)
楡葉町	⑱竜田駅東側地域 ⑲楡葉北産業団地 ⑳楡葉南工業団地	未定 未定 15ha	未定 未定※一部平成30年度末完成予定 一部区画を残し、整備済み	1区画 (0.4ha) なし なし
富岡町	㉑富岡産業団地 ㉒富岡工業団地 ㉓富岡第二工業団地	20ha 11ha 6.1ha	平成32年度末 随時着工※一部、整備済み 整備済み	未定 区画割は応相談 (5.4ha) なし
川内村	㉔田ノ入工業団地	8.5ha	整備済み	6区画 (7ha)
大熊町	㉕大熊西工業団地	12.2ha	未定	未定
双葉町	㉖双葉町中野地区復興産業拠点	49.6ha	平成32年度	区画割は応相談 (34.4ha)
浪江町	㉗浪江町北産業団地 ㉘浪江町南産業団地 ㉙浪江町棚塩産業団地	4ha 22ha 11ha	平成30年度末 平成31年度末 平成32年度末	2区画 (4ha) を予定 10区画 (22ha) を予定 2~3区画 (11ha) を予定
葛尾村	㉚葛尾村産業団地	3.9ha	平成31年度末	区画数未定 (3.0ha)
新地町	㉛新地南工業団地	8.3ha	平成30年3月	1区画 (5.4ha)

※赤字の産業団地は、入居募集中。



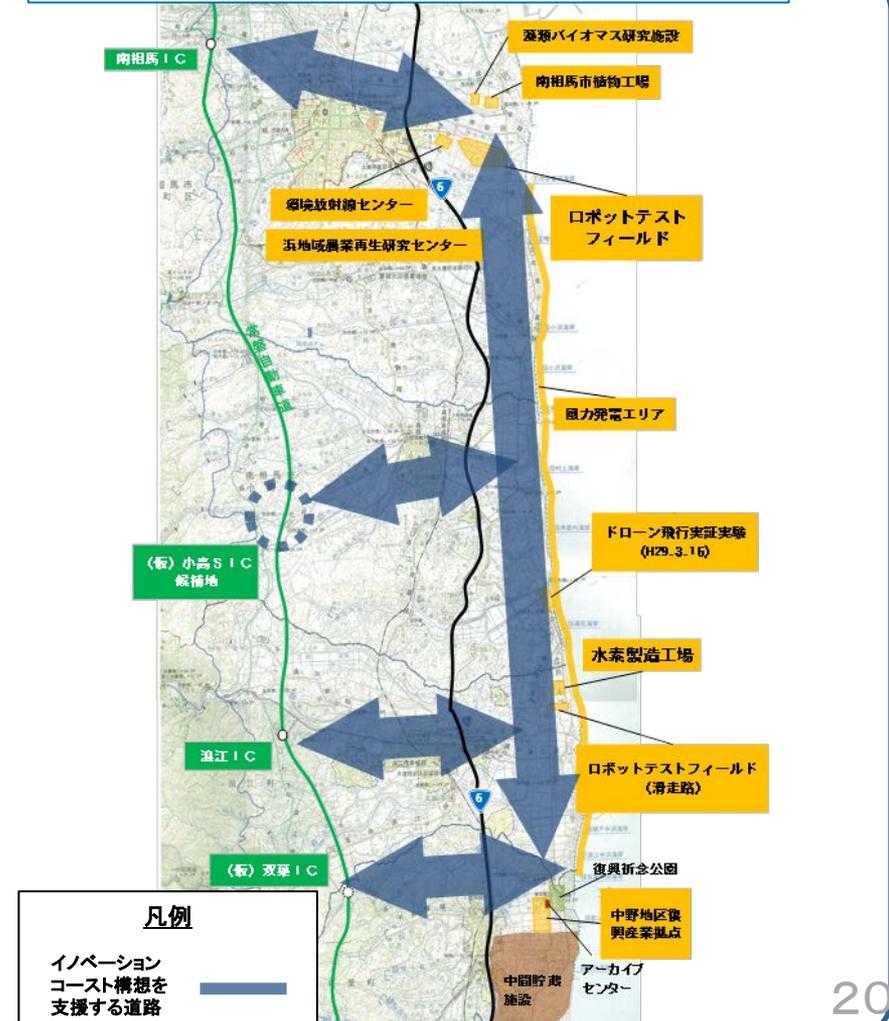
# 交通インフラの整備状況①

○ 避難解除等区域やその周辺の広域的な物流や地域医療、産業再生、福島イノベーション・コースト構想などを支えるふくしま復興再生道路等の幹線道路についても、平成30年代前半までの完成を目指し、整備を実施。

## ふくしま復興再生道路



## イノベーション・コースト構想を支援する道路整備



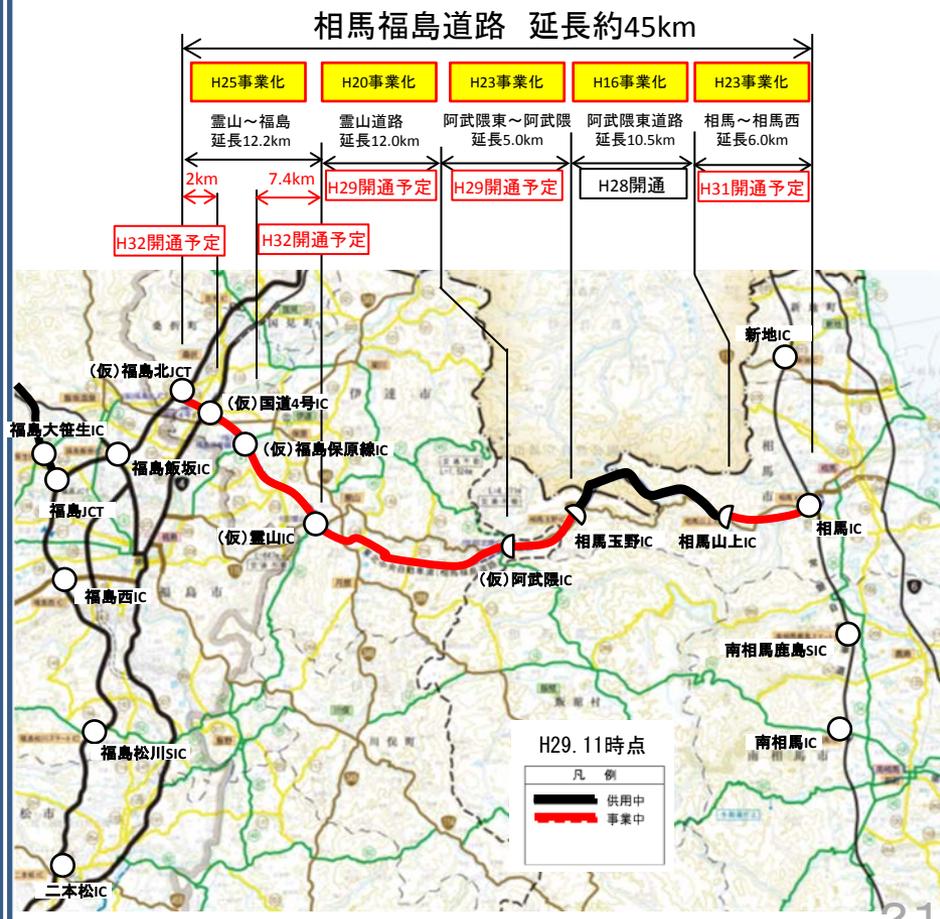
# 交通インフラの整備状況②

- 常磐自動車道では、いわき中央IC～岩沼ICの4車線化事業等が進展。いわき中央IC～広野ICの4車線化及びICの追加（（仮称）双葉、（仮称）大熊）について事業着手。
- 相馬福島道路は、H29.3に阿武隈東道路（10.5km）が供用開始。H29年度には相馬玉野IC～（仮称）霊山IC間のL=17.0kmが開通予定。

## 常磐自動車道



## 相馬福島道路

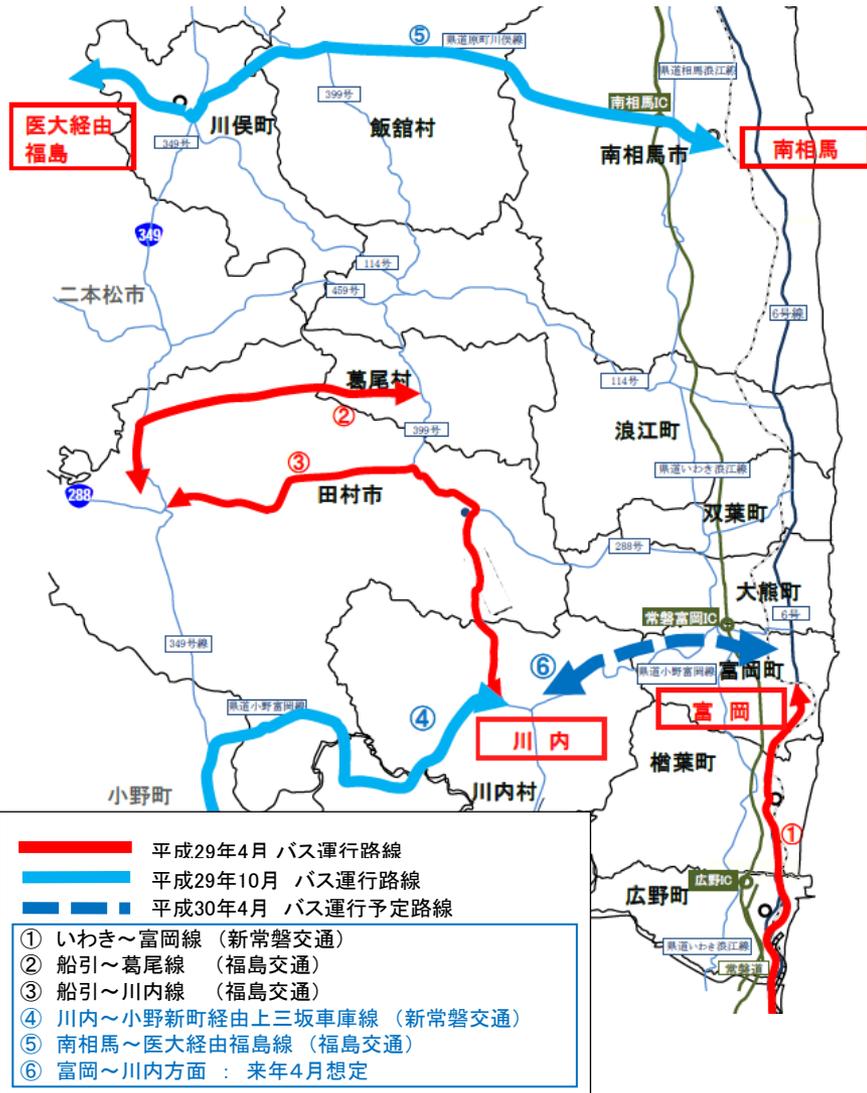


※4車線化及び付加車線設置について、復興・創生期間内の概ね5年での完成を目指す。

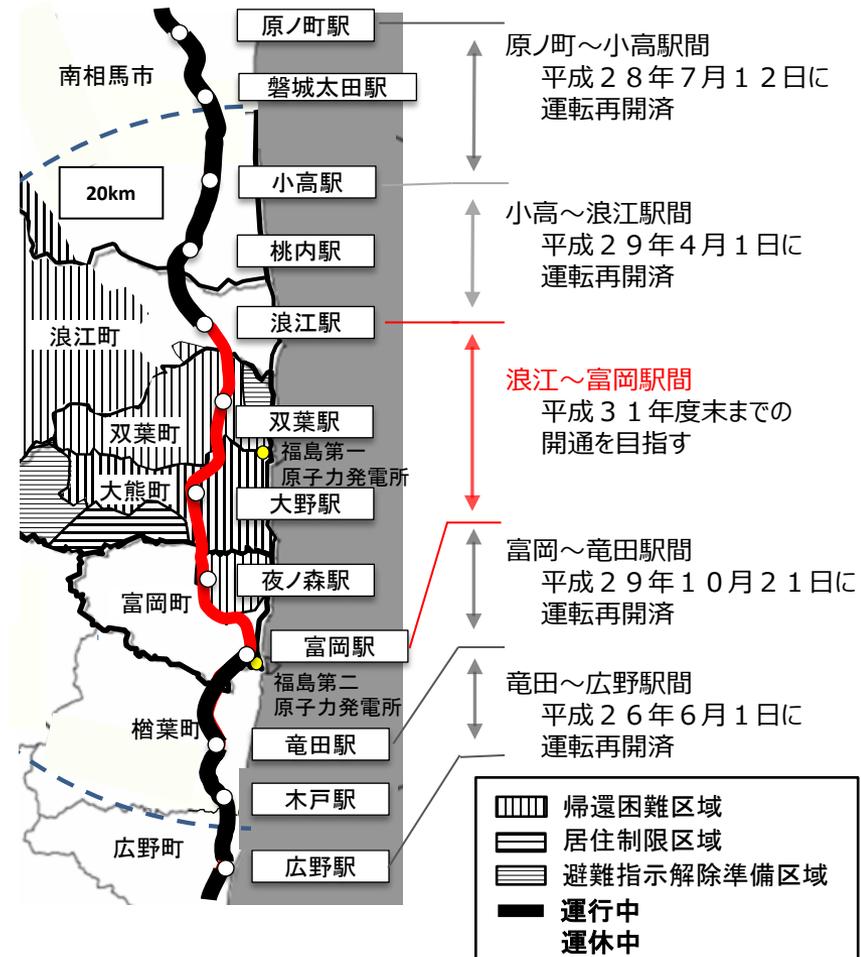
# 交通インフラの整備状況③

- 平成29年4月1日より「いわき～富岡」間を始めとした3路線、10月に「南相馬～医大経由福島」間を始めとした2路線の広域バス運行を開始。更に来年4月には「川内～富岡」間の運行開始を目指す。
- J R常磐線は、浪江～富岡駅間以外運転再開済。平成31年度末までの全線開通を目指す。

### 広域路線バスの運行見通し



### J R常磐線の開通等の見通し



# 原子力被災 12市町村の医療・福祉・教育施設の主な整備状況

## 飯館村

### 【医療施設】

- ・平成28年9月、医療機関「いいたてクリニック」が診療を再開。

### 【福祉施設】

- ・特養いいたてホームは、震災直後から運営を継続。

### 【教育施設】

- ・平成30年4月に小中学校、こども園が村内で再開予定。



いいたてクリニック

## 川俣町

### 【医療施設】

- ・平成28年10月より、山木屋診療所が診療を再開。

### 【教育施設】

- ・平成30年4月に小中学校が町内で再開予定。

## 葛尾村

### 【医療施設】

- ・平成29年11月より、葛尾村診療所が診療を再開。

### 【教育施設】

- ・平成30年4月に小中学校、幼稚園が村内で再開予定。

## 田村市

### 【医療施設】

- ・平成23年7月から都路診療所、歯科診療所が再開。

### 【福祉施設】

- ・平成24年3月に、特養都路まどか荘が再開。

### 【教育施設】

- ・平成26年4月から都路町の小中学校、こども園等が元の校舎で再開。

## 川内村

### 【医療・福祉施設】

- ・平成24年4月、村立保健・福祉・医療総合施設「ゆふね」が再開。

### 【福祉施設】

- ・平成27年11月、特養かわうちが開所。

### 【教育施設】

- ・川内中学校敷地内において、室内型村民プールが平成28年4月にオープン。



室内型村民プール

## 広野町

### 【医療施設】

- ・平成29年5月より、広野薬局が再開。

### 【教育施設】

- ・平成27年4月に、ふたば未来学園高校を開校。
- ・平成31年4月に、ふたば未来学園の併設中学校を開校予定。

## 南相馬市

### 【医療施設】

- ・平成28年4月より小高病院が週5日の外来診療を再開。
- ・平成29年4月より小高調剤薬局が再開。

### 【教育施設】

- ・平成22年度4月にテクニアカデミー浜を開校し、地元製造業等で必要な基盤技術を身につけた人材を育成。
- ・平成29年4月に小高区の幼稚園、小中学校が再開。
- ・小高商業高校と小高工業高校を統合し、小高産業技術高校を平成29年4月に開校。



小高調剤薬局

## 浪江町

### 【医療施設】

- ・平成29年3月、浪江診療所を役場敷地内に開設。

### 【教育施設】

- ・平成30年4月に小中学校、こども園が町内で再開予定。



浪江診療所

## 富岡町

### 【医療施設】

- ・平成28年10月にとみおか診療所が開所、平成29年4月に富岡中央病院が再開。また、平成30年4月に、2次救急医療施設「ふたば医療センター(仮称)」が開院予定。

### 【教育施設】

- ・平成30年4月に小中学校が町内で再開予定。

## 楢葉町

### 【医療施設】

- ・平成28年2月、県立ふたば復興診療所(内科、整形外科)が開所。

### 【福祉施設】

- ・平成28年3月、特養リリー園が再開。

### 【教育施設】

- ・平成29年4月、小中学校が町内で再開。



県立ふたば復興診療所

## 広野町

### 【福祉施設】

- ・平成24年4月に、特養花ぶさ苑が再開。